

第64期第2四半期決算参考資料

(平成26年3月期 第2四半期決算概要)

平成25年10月30日

イワブチ株式会社

IWABUCHI CORPORATION

平成26年3月期第2四半期の業績

■ 第2四半期の総括

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の積極的な経済政策や日本銀行の金融政策などにより円安や株高が進み企業収益や個人消費が改善に向かうなど、緩やかな回復基調が見られました。しかしながら、欧州財政問題や新興国の経済停滞などに対する懸念もあり、依然として先行き不透明な状況にあります。

当社グループの大口需要家であります電力会社では、資材・役務調達コストの削減や、代替発電用の燃料費負担ならびに原子力発電所の再稼動に向けた安全対策投資などの影響から、設備投資が削減の方向にあり、当社グループに関連する配電線路・通信線路分野において工事量が減少傾向にあります。

また、情報通信関連において、NTTではスマートフォンやタブレット端末の普及を受けて、光回線工事が減少傾向にあり、依然厳しい状況が続いております。

このような事業環境のもと、当社グループの生産部門では、省人化設備の導入や工程集約によるコスト削減ならびに品質の向上を図りました。また、海陽イワブチにおいても設備効率化の推進を図り価格競争力のある製品の生産に取り組みました。

また、営業部門では、警察庁の補正予算に伴う老朽化した信号柱建替や信号灯器のLED化工事、電気通信事業者による光伝送路や移動体アンテナ設置工事、NTTコンクリート柱の建替関連製品の拡販など精力的な営業を展開しました。

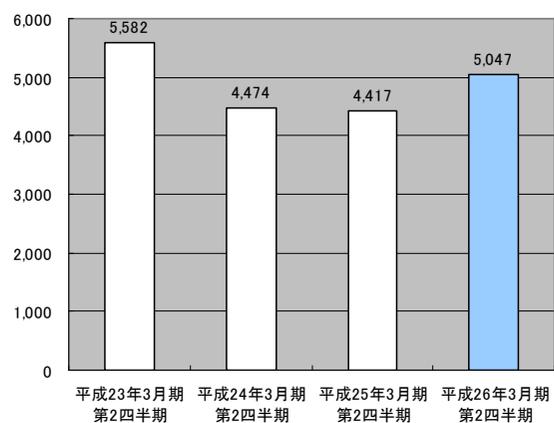
以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,047百万円と前年同期に比べ630百万円、14.3%の増収となりました。また、経常利益は469百万円(前年同期は経常損失167百万円)となり、四半期純利益は306百万円(前年同期は四半期純損失48百万円)となりました。

■ 業績の推移（第2四半期連結）

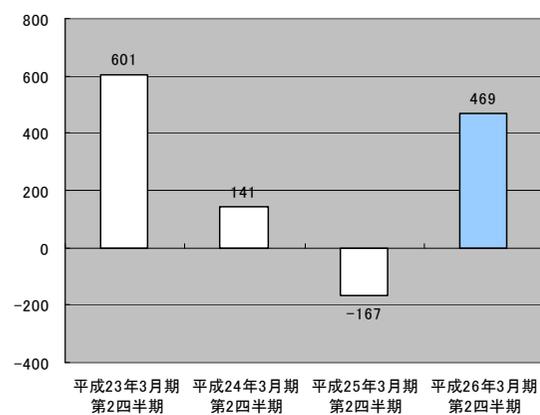
単位：百万円

	平成23年3月期 第2四半期	平成24年3月期 第2四半期	平成25年3月期 第2四半期	平成26年3月期 第2四半期
売上高	5,582	4,474	4,417	5,047
経常利益	601	141	△167	469
当期純利益	237	73	△48	306
1株当たり当期純利益	21円59銭	6円68銭	△4円42銭	27円91銭

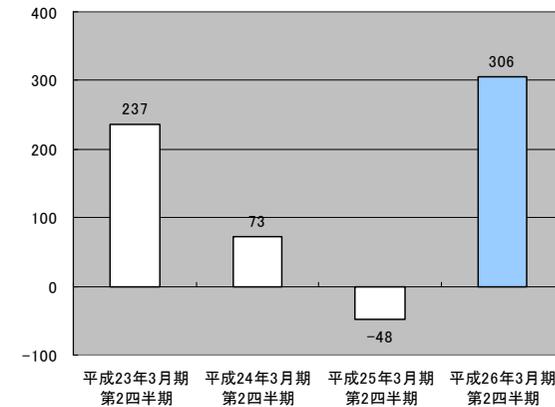
売上高(連結)



経常利益(連結)



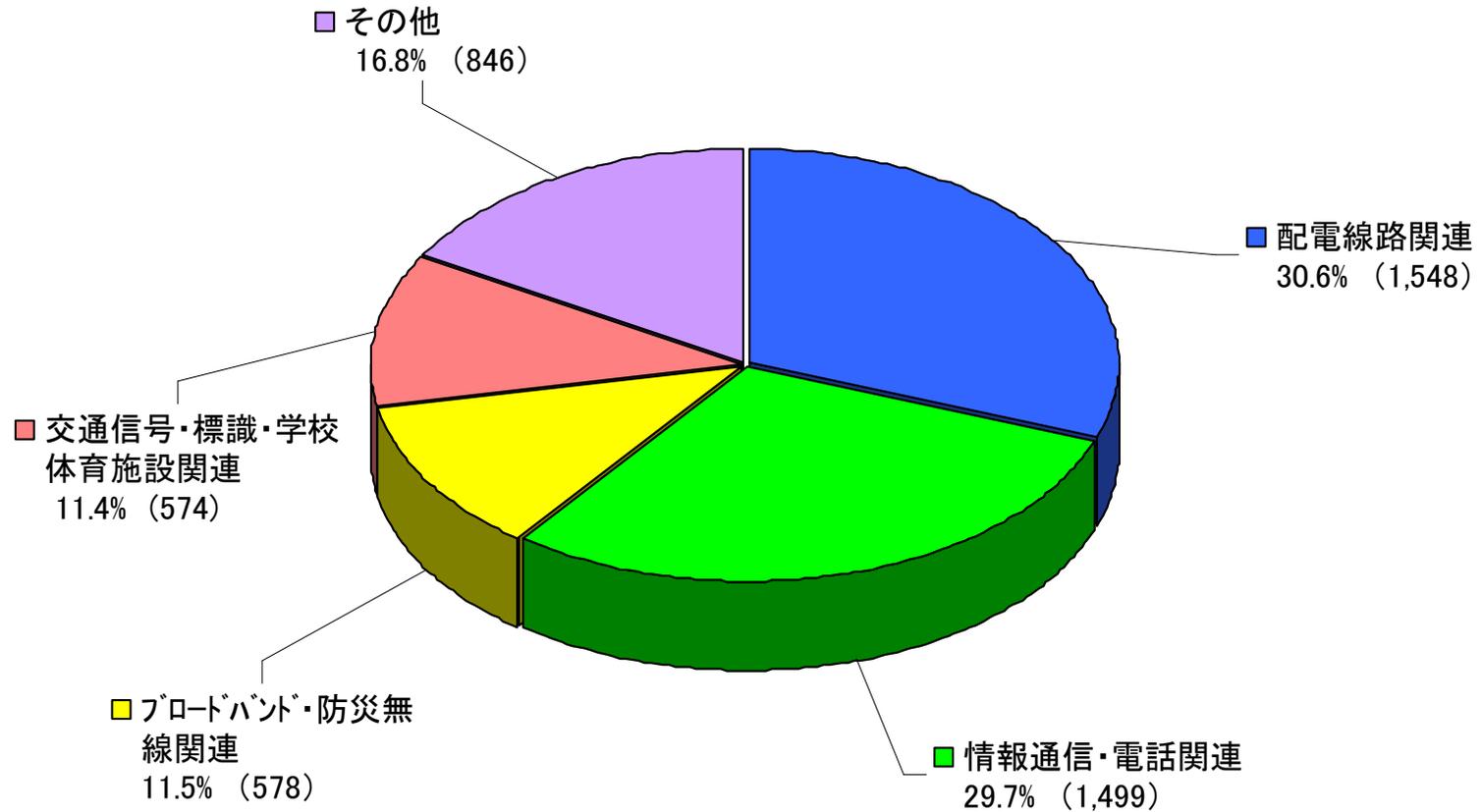
当期純利益(連結)



■ 需要分野別売上高(連結)分析(第2四半期連結)

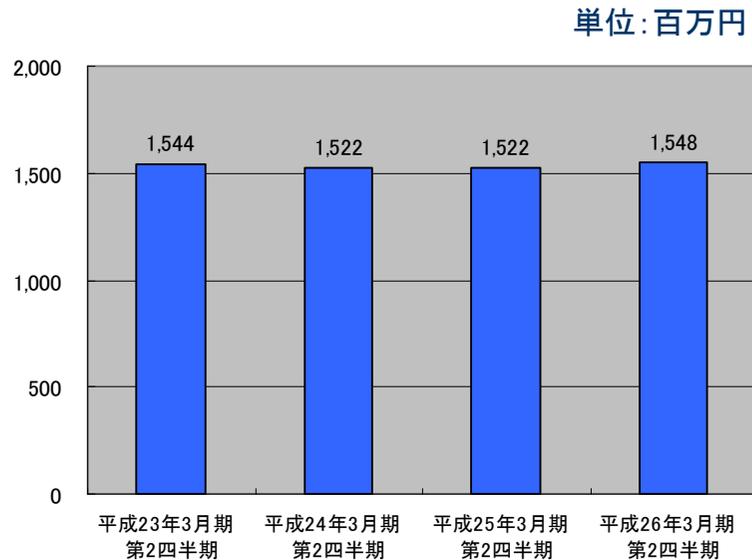
単位:百万円

売上高合計:5,047百万円



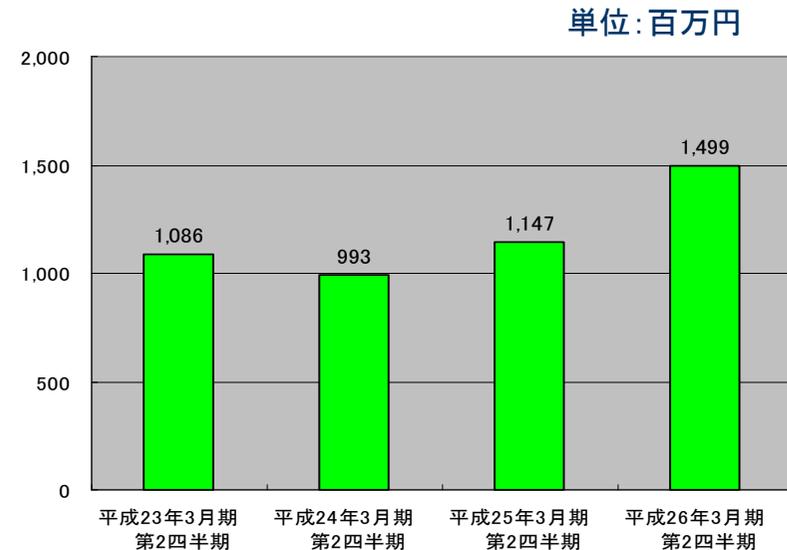
■ 配電線路関連（連結）

配電線路関連は、電力会社における原子力発電停止に伴う火力発電用の燃料費や原子力安全対策コストの増加により当社に関連した配電予算が抑制傾向にあるなか、設備更新や太陽光発電システムに付随する工事などが好調に推移しました。その結果、売上高は1,548百万円とほぼ前年同期並みとなりました。



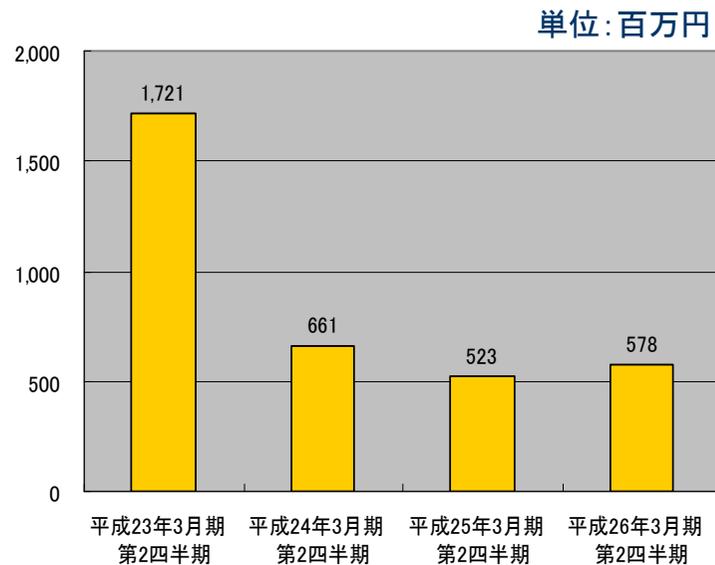
■ 情報通信・電話関連（連結）

情報通信関連は、電気通信事業者が進めている光伝送路や移動体アンテナ設置工事が全国的に好調に推移しました。また、電話関連においてNTTでは、関東・北海道エリアを中心とする老朽化したコンクリート柱の建替工事などが好調に推移しました。その結果、売上高は1,499百万円と前年同期に比べ351百万円、30.6%の増収となりました。



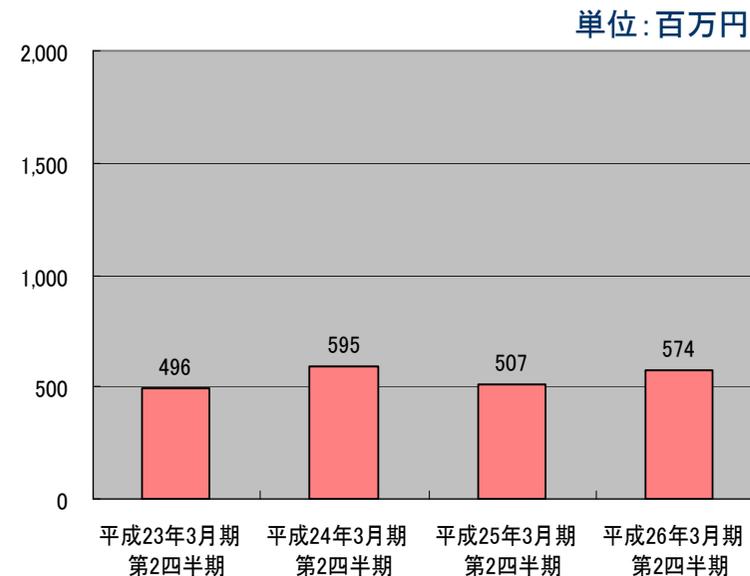
■ ブロードバンド・防災無線関連(連結)

防災無線関連は、計画されていた物件が一部下期に繰延べとなり低調に推移しました。しかしながら、ブロードバンド関連は、東海エリアを中心に物件が集中し好調に推移しました。その結果、売上高は578百万円と前年同期に比べ54百万円、10.5%の増収となりました。



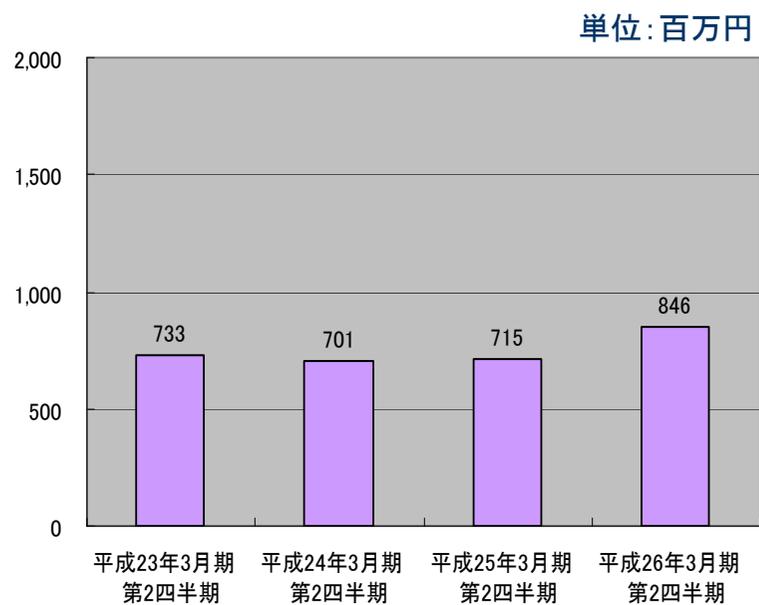
■ 交通信号・標識・学校体育施設関連(連結)

学校体育施設関連は、防球ネット、照明工事共に小規模な補改修工事が主体ながら好調に推移しました。また、交通信号・標識関連は、警察庁の補正予算に伴う老朽化した信号柱建替や信号灯器のLED化工事が好調に推移しました。その結果、売上高は574百万円と前年同期に比べ67百万円、13.2%の増収となりました。



■ その他（連結）

民間設備投資は、政府の積極的な経済政策の影響もあり全国的にLED照明関連工事などが好調に推移しました。その結果、売上高は846百万円と前年同期に比べ130百万円、18.2%の増収となりました。



今後の業績予想

■ 基本方針

当社は、電力、通信、信号、放送、鉄道関連の架線金物を主として製造販売しております。昭和25年設立以来、経済的かつ信頼度の高い製品を供給し、電力、通信をはじめとした幅広いインフラ構築の一翼を担い、社会に貢献することを経営の基本理念としております。

当社グループは、この基本理念に基づき人材育成を図り、顧客のニーズに合致した製品を開発する為の技術を培い、生産設備を充実し、全国を網羅する供給、販売サービス体制を確立して、顧客からの信頼を得てまいりました。

現在わが国は、東日本大震災から2年が経過し復興に向けた取り組みが進められておりますが、当社の基本理念に基づき、私達の生活の礎となる電力、通信、交通など幅広いインフラ構築に貢献すべく、更なる開発及び生産技術を磨き、より信頼性の高い製品の提供に全力で取り組んでまいります。

■ 中長期的な経営戦略

わが国経済は、政権交代に伴う景気浮揚策への期待から株価の回復や円安傾向で明るさも見えますが、長期化する原発再稼働問題など一昨年の震災の影響を依然として受けており、先行きに対する不透明感が強い状況です。

こうした状況を背景に、復興需要やスマートフォンの急速な普及に伴う情報通信業者の通信線路部門への設備投資が見込まれるものの、原発停止による発電コスト増により、大口需要家である電力会社の配電への設備投資ウエイトの低下が予想されるなど、当社グループを取り巻く環境は引き続き厳しい状況となっております。

このような経営環境に対し、生産性の向上を図り、顧客の求める信頼性の高い製品を供給するとともに、より一層経営品質を高め、企業の社会的責任を果たすため、次のことを実行してまいります。

- ① 資源の価格変動を中長期的に捉え、安定した材料・部品の仕入体制を確保します。
- ② 中国の子会社 海陽イワブチの設備・ラインの改善をさらに進め、品質上の問題を未然に防ぎ、戦略子会社として生產品の多様化と生産の効率化を進め、コスト競争力の向上を図ります。
- ③ 社内及び協力会社における品質上の問題を未然に防ぐため、予防措置に重点をおいた品質管理指導を強化します。
- ④ 不断の業務見直しにより、「ムダ」な業務を廃止し、業務の効率化を行い、経営コストの低減を図ります。
- ⑤ 何をなすべきかを明確にし、技量、モチベーションの向上を図るため、社員に対する研修・教育を強化します。

■ 重点施策

① 人材育成

顧客とのゆるぎない信頼関係を構築し顧客満足度を向上させるべく、当社グループすべての職場環境を含めた人材投資に力点を置き、積極的な社員教育を実施してまいります。また、製造業として技術の継承を確実に実施すると共に新たな技術への挑戦にも全力で取り組んでまいります。

② 競争力強化、並びに迅速な対応の徹底

当社グループにおける生産、販売、管理というそれぞれの側面において、競争力強化のために更なるコストの低減に努めます。また、時代の変化を敏感にキャッチし迅速且つ的確な対応を徹底することで、企業としての総合力の強化を図ってまいります。

③ 真摯に取り組む姿勢

当社グループを取り巻くすべてのことに真摯に向き合い、品質向上や顧客満足度向上を更に目指し、幅広いインフラ構築の一端を担う企業として社会貢献に繋げるべく取り組んでまいります。また、企業として社会的責任を果たすべく、コンプライアンスの順守を根幹に据えた企業経営を進めてまいります。

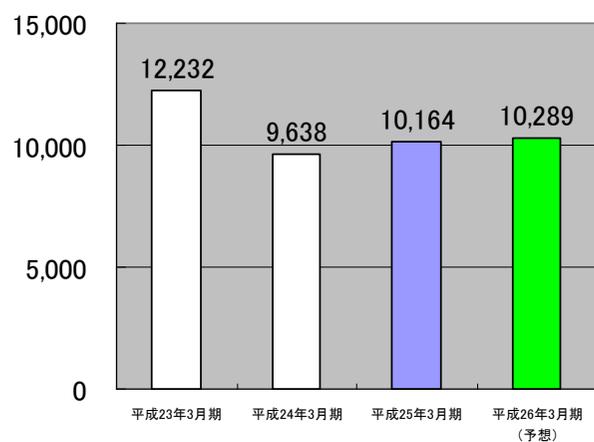
■ 通期の業績予想(連結)

メイト株式会社

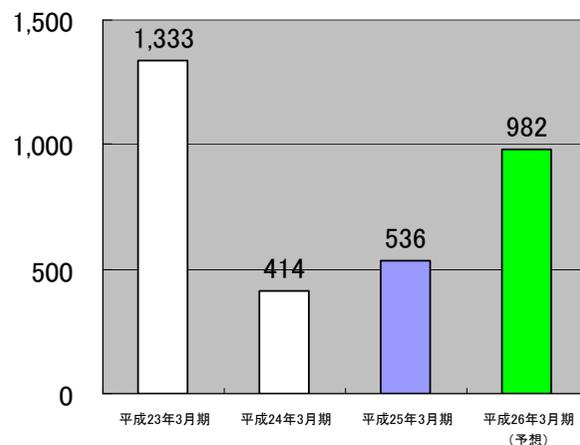
単位: 百万円

	平成23年3月期	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期 (予想)
売上高	12,232	9,638	10,164	10,289
経常利益	1,333	414	536	982
当期純利益	658	129	362	531
1株当たり当期純利益	59円89銭	11円82銭	33円2銭	48円32銭

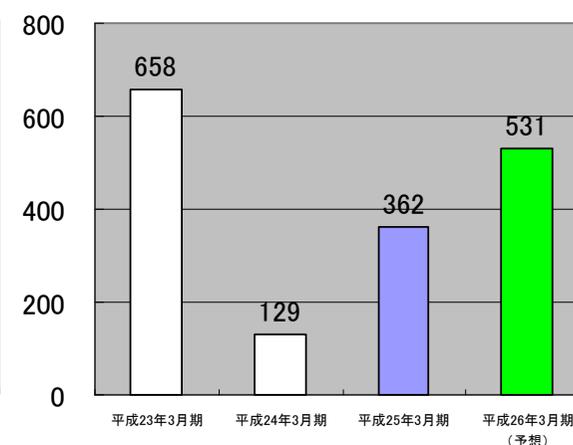
売上高(連結)



経常利益(連結)



当期純利益(連結)



●業績予想の修正について

当社は、平成25年5月20日に公表いたしました業績予想の修正につきまして、平成25年10月22日付で下記のとおりお知らせしています。

1. 第2四半期(累計)業績予想

第2四半期(累計)の連結業績予想につきましては、電気通信事業者が進めている光伝送路工事や移動体アンテナ設置工事が好調に推移したことに加え、電話関連において、老朽化したコンクリート柱の建替工事などが好調だったことに伴い、売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益が前回予想を上回る見通しとなりましたので、修正いたします。

第2四半期(累計)の個別業績予想につきましても、連結と同様の理由で修正いたします。

2. 通期業績予想

通期の連結・個別業績予想につきましては、第2四半期(累計)の業績予想の修正を踏まえ見直した結果、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益が前回予想を上回る見通しとなりましたので、修正いたします。

※上記の業績予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

資料取扱上のご注意

本資料は、現時点における将来の経営環境予想等の仮定に基づいております。よって、本資料において、当社の将来の業績を保証するものではないことを、ご承知おきください。